

やさしさにであったら

■ 楽曲データ

歌詞：久井ひろ子 作詞（仏教音楽研究所 補作）

楽曲：湯山昭 作曲

発表：仏教婦人会総連盟 1982年

初演：—

初出：『やさしさにであったら』 浄土真宗本願寺派仏教婦人会総連盟 1982年

管理番号：M1826

■ 創作の経緯

仏教婦人会創立150年記念讃歌として制作された。詞は公募による。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第6巻収録

底資料：『やさしさにであったら』 浄土真宗本願寺派仏教婦人会総連盟 1982年

比較資料：—

校訂の詳細：特記事項なし

■ 解説

この曲は、「慈光^{みひかり}に照らされた日々をおくります」「み法の友の輪をひろげます」いう仏教婦人会綱領の理念を、日常的な場面と平易な言葉で、文字通りやさしく語りかけています。ともに声を合わせて歌えば、しみじみとした喜びがあふれてきます。おなじみの《婦人会の歌》や《アソカの園》に続く仏教讃歌として、仏教婦人会の総会・例会、親睦会はもちろん、普段の法会にもご活用ください。

◆ 作詞者について

久井ひろ子さんは、広島県三原市にお住まいの主婦（当時）で、仏教音楽研究所（現・浄土真宗本願寺派総合研究所 仏教音楽・儀礼研究室）が行っていた「創作募集」では、常連の応募者でした。久井さんの詞は、一つひとつの言葉が私達自身のそれとして響いてくるような、親しみと暖かさに満ちています。

◆ 作曲者について

湯山昭さん（1932～）は、現代日本の代表的な作曲家のひとり。とくに女声合唱においては、清楚でこまやかな情感をたたえた作風が広く愛されています。

◆歌い方について

- ①語感（言葉の意味や響き）を大切に、一語一語かたりかけるように歌いましょう。
- ②子音をはっきり発音し、清潔感のある響きを心がけましょう。「あげよう」「やすらぐ」「かぎりない」など、語中にあるガ行は鼻濁音です。
- ③5小節目の2分音符は伸ばし過ぎず、心もち切りあげて、次の歌詞を発音しましょう。
- ④6小節目4拍目「よろこびを」、11小節目4拍目「ほほえみを」は、それぞれ新しいフレーズの出だしです。直前には息継ぎもあり、歌い出すタイミングが遅れやすいので、気を付けましょう（息継ぎの際には、直前の音符を心もち短めに。ただし乱暴にならないよう、「短く弱く」がコツです）。
- ⑤15小節目からのフレーズに、この曲で最も高い音（ミ）が出てきます。この部分に、1・2番では「を」「の」という助詞が当てられているのでぶつけないように。3番は「かぎりない」という言葉全体でとらえて、歌いきってください。
- ⑥19小節目の8分休符は、ブレス（息継ぎ）のために休むのではなく、次の言葉を発するためのきっかけと感じてください。
- ⑦最後の全音符は、1・2・3番とも、弱くせず、フォルテ（強く）のまま歌いきりましょう。

解説執筆：井上一朗（仏教音楽研究所 [現・浄土真宗本願寺派総合研究所仏教音楽・儀礼研究室] 指導員）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 5（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第130号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.